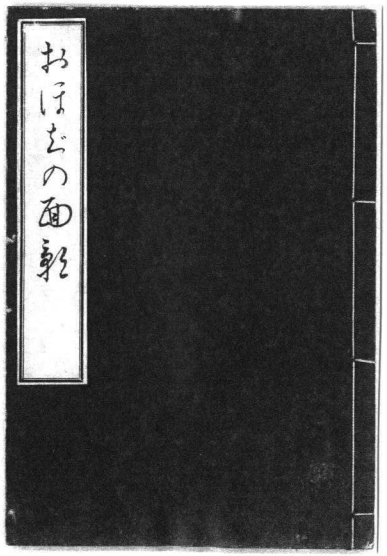
鈴木新　すずきあらた　歌人。文化十三年七月江戸生れ、明治十六年一月二十四日歿（一八二六―八三）。通稱好太郎（よし）、のち有之丞。代々一橋家の家臣で、誕生の翌年父を失い祖母に養育せられた。幼少より主家に仕へ、御側衆から御小姓、御奥勤、御廣表御用人等の役を勤め、一橋家五代齊位から九代茂榮の五君に歷仕、廢藩置縣の折御暇となった。

少時同家臣長柄奉行を務めた行方六左衛門に學び、和歌は祖母刀自の薫陶を受けた。藩中でも知られた藏書家で、自身和漢の書こしらふ書き讀破、就れも訂正、書入れを爲した。主家勤務中、成島司直、屋代弘賢、倉賀野丸全、前田夏蔭等と交際。生前和歌一萬首を作り、遺文中「長慶天皇正統論並諸説」は、のちに南北正閏論起りし頃、三田村鳶魚によつて雜誌『日本及日本人』に全文掲載せられたといふ。（岡本保孝翁と共に、幕末の二大篤學者）（前田太吉）。

歿後五十年追善集『おほぞらの面影』（昭和八年一月）は鈴木好太郎編刊）に、遺文八篇を收める。